

**TIST**

Tsukuba Institute of Science & Technology

こども未来学科  
令和6年度3学年用 前期シラバス

筑波研究学園専門学校

令和6年度 3学年 前期シラバス

目次

こども未来学科 幼児保育コース・幼児スポーツコース・幼児音楽コース

【教科目名】	【授業科目名】	ページ数
保育の内容・方法に関する科目		
	こどもの健康と安全	1
	こどもと音楽Ⅰ（合唱）	2
	音楽表現Ⅴ	3
総合演習		
	保育教職実践演習	4
保育実習		
	（選）保育実習Ⅱ（保育所）	5
	（選）保育実習Ⅲ（施設）	6
	（選）保育実習指導Ⅱ（保育所）	7
	（選）保育実習指導Ⅲ（施設）	8
学外実習		
	教育実習事前事後指導Ⅱ	9
	（選）教育実習Ⅱ	10
	（選）幼児教育研究Ⅱ	11
表現		
	表現Ⅰ	12
	表現Ⅱ	13
卒業研究		
	卒業研究Ⅰ	14

授業科目名：こどもの健康と安全	授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目	・こどもの健康と安全	
荻根 文江	[実務経験]看護師	
授業の到達目標及びテーマ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</li> <li>・関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。</li> <li>・こどもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>・関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。</li> <li>・保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、こどもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>・こどもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</li> </ul>		
授業の概要		
こどもの心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考え、健康増進のための適切な関わりについて学ぶ。そして関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、感染症対策、衛生管理、安全対策、危機管理、災害対策について理解する。		
授業計画		
1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	①こどもの健康と保育の環境	
2. //	②こどもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理	
3. 保育における健康及び安全の管理	①衛生管理 ②事故防止及び安全対策	
4. //	③危機管理 ④災害への備え	
5. こどもの体調不良等に対する適切な対応	①体調不良や傷害が発生した場合の対応	
6. //	②応急処置 ③救急処置及び救急蘇生法	
7. 感染症対策	①感染症の集団発生の予防	
	②感染症発生時と罹患後の対応	
8. 保育における保健的対応	①保育における保健的対応の基本的な考え方	
9. //	②3歳未満児への対応	
10. //	③個別的な配慮を要する子どもへの対応 (慢性疾患、アレルギー一性疾患等)	
11. //	④障害のある子どもへの対応	
12. 健康及び安全の管理の実施体制	①職員間の連携・協働と組織的取組	
13. //	②保育における保健活動の計画及び評価	
14. //	③母子保健・地域保健における自治体との連携	
15. //	④家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携	
16. 試験		
テキスト		
「こどもの健康と安全」松田博雄、金森三枝／編（中央法規）		
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
プリントなどを講義時に配布する。		
学生に対する評価		
提出課題および試験等により総合的に評価する。		

授業科目名：こどもと音楽Ⅰ（合唱）		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
専門科目		・音楽	
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ・エレクトーン講師		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「表現」分野		
授業の到達目標及びテーマ 自らの感性を磨くことを目標に学んできた3年間の音楽の授業の集大成として、全員で一つの音楽を創り上げる。さらに音楽表現を通して人に感動を与えることを目標に学び、実際に体得する。			
授業の概要 卒業音楽発表会、文化祭に向けて練習を重ねていく中で、音楽が人間教育に欠かせないものであることを自らの体験を通して学び、歌を通じた自己表現につなげる。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. 楽曲についての理解、発声練習 3. 発声練習、パート分け 4. パートごとの音取り①（発声練習は継続して行う） 5.       "                   ② 6.       "                   ③ 7.       "                   ④ 8.       "                   ⑤ 9.       "                   ⑥ 10. 合唱練習① 11.       "   ② 12.       "   ③ 13.       "   ④ 14.       "   ⑤ 15.       "   ⑥ 16. 試験（中間発表）			
テキスト 楽譜を配布する。			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			

授業科目名：音楽表現Ⅴ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：40H
保育の表現技術		・保育の表現技術	
領域および保育内容の指導法に関する科目		ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育部非常勤講師		
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「言葉」分野		
重藤 清美	[実務経験]ピアノ講師		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ・エレクトーン講師		
塚田 規子	[実務経験]ピアノ講師		
佐藤 いづみ	[実務経験]ピアノ講師		
関 義夫	[実務経験]ピアノ講師		
入江 亜矢子	[実務経験]ピアノ講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育内容に沿って、こどもの音楽活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現・鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。 現場での即戦力となる弾き歌いのレパートリーを各自のレベルに応じて広げ、同時に現場での多様なニーズに対応できるように、実践的で応用性のある音楽的能力を養う。			
授業の概要 ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行う。実技習得は各自の習得度に応じた個別指導を行う。			
授業計画			
1. オリエンテーション	9.	〃	
2. 実習に向けて弾き歌いのレパートリーを広げていく。課題曲と個々の習得度を考慮した曲を選び学習する。（個人レッスン）	10. 11. 12.	〃 〃 〃	
3. ソルフェージュの継続的練習と弾き歌いの実践	13.	発表会形式によるプレテスト （弾き歌いの成果を互いに聴く）	
4. 〃	14.	プレテストの課題をもとに練習	
5. 〃	15.	〃	
6. 〃	16.	試験	
7. 〃			
8. 〃			
テキスト こどもの指導法「音楽表現」西野洋子 茨木金吾 國光みどり 石川ますみ 田上栄美子 菅原峰子／編（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会／編著（音楽之友社） 「こどものうた200」小林美実／著（チャイルド本社） 弾き歌いプリントを授業時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、実技試験等の結果を総合して評価する。			

授業科目名：保育教職実践演習		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H
教育実践に関する科目		ロ 教職実践演習	
大森 淳子	[研究テーマ]幼児教育・音楽教育・保育内容「表現」分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ 3年間で学んだ学習知と教育実習等で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を身に付ける。幼稚園における実践を中心としているが、幼稚園と小学校のつなぎ、保育所と幼稚園の連携等を十分に意識し、教育現場・保育現場で直面する問題に対して対応力を学ぶ。			
授業の概要 これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。			
授業計画 1. 教師という職業 2. 保育者の資質についての理解 3. 学級経営 4. 発達障害について 5. 統合保育について 6. 特別支援教育の基礎 ①理念と制度、システム 7.                    "                    ②支援の留意点、保護者への対応 8. 保育における集団の編成 9. 幼児教育の将来的展望 10. 幼保小連携 11. 保育実習の振り返り 12. 施設実習の振り返り 13. 課題の発見と課題の明確化 14. 課題を踏まえて自身の保育者の資質についての見解 15. 学習のまとめ 16. 試験			
テキスト 「保育・教職実践演習」上長然・國光みどり／著（豊岡短期大学） 「教職論」原田敬文・丹波政俊・吉益敏文／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 その都度プリントを配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：(選) 保育実習Ⅱ (保育所)		授業形態：実習	単位：2単位 実習時間数：80H
保育実習		・保育実習Ⅱ	
大森 淳子	[研究テーマ]幼児教育・音楽教育・保育内容「表現」分野 豊岡短期大学教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務		
松田 静佳	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務		
福田 翔平	[実務経験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の概要			
乳幼児と実際にかかわりながら、保育の理論と実践の関係について学び、こどもの姿からよりよい保について考え、指導計画を作成し、指導実習を行う。自身のこどもとのかかわりの中から、客観的に省する力や今後の課題について考える。			
実習内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>①養護と教育が一体となって行われる保育</li> <li>②保育所の社会的役割と責任</li> </ol> </li> <li>2. 観察に基づく保育の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>①こどもの心身の状態や活動の観察</li> <li>②保育士等の援助や関わり</li> <li>③保育所の生活の流れや展開の把握</li> </ol> </li> <li>3. こどもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育</li> <li>②入所しているこどもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援</li> <li>③関係機関や地域社会との連携・協働</li> </ol> </li> <li>4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>①全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解</li> <li>②作成した指導計画に基づく保育の実践と評価</li> </ol> </li> <li>5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>①多様な保育の展開と保育士の業務</li> <li>②多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> </ol> </li> <li>6. 自己の課題の明確化</li> </ol>			
テキスト			
「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)			
参考書・参考資料等			
「幼稚園保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子他／著(わかば社)			
学生に対する評価			
実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			

授業科目名：(選) 保育実習Ⅲ (施設)		授業形態：実習	単位：2単位 実習時間数：80H
保育実習		・保育実習Ⅲ	
大森 淳子	[研究テーマ] 幼児教育・音楽教育・保育内容「表現」分野 豊岡短期大学教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
佐々木 涼	[実務経験] 幼稚園教諭 [研究テーマ] 保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
大塚 由利子	[実務経験] 保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務		
松田 静佳	[実務経験] 保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務		
福田 翔平	[実務経験] 茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ] デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。</li> <li>・家庭と地域の生活実態にふれて、こども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。</li> <li>・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>・実習における自己の課題を理解する。</li> </ul>			
授業の概要			
保育実習Ⅰでの課題と向き合う。こどもや利用者の最善の利益を考慮した保育を実践的に理解するとともに保育の計画や実践についてより深く理解する。ケアの方法を中心として保育士の専門性や職業倫理についても実践的に学ぶ。			
実習内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能</li> <li>2. 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>①受容し、共感する態度</li> <li>②個人差や生活環境に伴うこども（利用者）のニーズの把握とこども理解</li> <li>③個別支援計画の作成と実践</li> <li>④こども（利用者）の家族への支援と対応</li> <li>⑤各施設における多様な専門職との連携・協働</li> <li>⑥地域社会との連携・協働</li> </ol> </li> <li>3. 保育士の多様な業務と職業倫理</li> <li>4. 保育士としての自己課題の明確化</li> </ol>			
テキスト			
「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他／著（わかば社）			
学生に対する評価			
実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			



授業科目名：(選) 保育実習指導Ⅱ (保育所)		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：20H
専門科目		・学外実習	
福田 翔平	[実務経験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭(保健体育)・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</li> <li>・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</li> <li>・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。</li> <li>・保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>保育実習Ⅰでの課題と向き合う。保育の内容や方法、形態、表現技術等についての実践的な力量を培い、一人ひとりの子どもへの適切な関わりについて学ぶとともに保護者支援の方法についても理解する。保育士の専門性や職業倫理についても実践的に学ぶ。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習による総合的な学びについて</li> <li>2. こどもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</li> <li>3. こどもの保育と保護者支援</li> <li>4. こどもの状態に応じた適切な関わり</li> <li>5. 保育の知識・技術を活かした保育実践</li> <li>6. 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践</li> <li>7. 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善</li> <li>8. 保育士の専門性と職業倫理</li> <li>9. 部分実習指導案作成①</li> <li>10.            "            ②</li> <li>11. 責任実習指導案作成①</li> <li>12.            "            ②</li> <li>13.            "            ③</li> <li>14. 実習の総括と自己評価</li> <li>15. 課題の明確化</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
テキスト			
「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)			
参考書・参考資料等			
プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：(選) 保育実習指導Ⅲ (施設)		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：20H
専門科目		・学外実習	
福田 翔平	[実務経験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭(保健体育)・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</li> <li>・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</li> <li>・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。</li> <li>・保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>保育実習Ⅰでの課題と向き合う。こどもや利用者の最善の利益を考慮した保育を実践的に理解するとともに保育の計画や実践についてより深く理解する。ケアの方法を中心として保育士の専門性や職業倫理についても実践的に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習による総合的な学びについて</li> <li>2. こどもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</li> <li>3. こどもの保育についての理解と実践</li> <li>4. こどもの状態に応じた適切な関わり</li> <li>5. 保育の知識・技術を活かした保育実践</li> <li>6. 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践</li> <li>7. 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善</li> <li>8. 部分実習指導案作成①</li> <li>9.                 "                 ②</li> <li>10. 責任実習指導案作成①</li> <li>11.                 "                 ②</li> <li>12.                 "                 ③</li> <li>13.                 "                 ④</li> <li>14. 実習の総括と自己評価</li> <li>15. 課題の明確化</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
<p>テキスト</p> <p>「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>プリントなどを講義時に配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。</p>			

授業科目名：教育実習事前事後指導Ⅱ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：20H
専門科目		・学外実習	
倉田 照子	[実務経験]小学校教諭・中学校教諭（音楽） [研究テーマ]教育・保育内容「言葉」分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育部非常勤講師		
大塚 由利子	[実務経験]幼稚園教諭・保育士 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
松田 静佳	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ 教育実習に向けての準備を行う。幼稚園の機能と役割、実習の目的・意義、観察や記録の仕方、実習日誌の書き方、指導案作成など、実習の基本的な知識、技術、意識を学ぶことを目的とする。			
授業の概要 実習の意義と目的、実習生としての心構えを確認しながら、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点や方法、指導案作成等の習得に努める。			
授業計画 1. オリエンテーション 2. 日誌の確認 3. 実習の意義 4. 教育・保育・養護とはなにか 5. 保育者の資質と役割 6. 保育者に求められるもの 7. こどもの理解 8. 環境を通して行う教育 9. 遊びを通しての総合的な指導 10. 環境構成 11. 指導案作成：指導案作成の実際① 12.                    "                    ② 13.                    "                    ③ 14.                    "                    ④ 15. 実習の総括と評価、課題の明確化：①幼児理解と学び ②保育者の活動からの学び 16. 試験			
テキスト 「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：(選) 教育実習Ⅱ		授業形態：実習	単位：2単位 実習時間数：80H
教育実践に関わる科目		イ 教育実習	
倉田 照子	[実務経験] 小学校教諭・中学校教諭（音楽） [研究テーマ] 教育・保育内容「言葉」分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 幼稚園教諭の指導の下、現実の幼稚園現場における幼児との直接的な関わりを通じて幼稚園教諭になるための実践上、研究上の基礎的な能力、態度を養成する。幼児の発達、個人差を踏まえた理解を深め、教員間のチームワークや他の機関との連携を学ぶことを通して、幼稚園教諭としての使命感、様々な保育を通じた実践的指導力の基礎を体得し、幼稚園教諭の実践上の課題を解決していく上で必要とされる資質、能力を培う。また、教育者としての職業倫理を理解する。			
授業の概要 第1週目は、こどもとの関わりの中から、自身を客観的に省察する力や今後の課題について考えていく。第2週目は、こどもの姿からより良い幼児教育について考え、指導計画を作成し、指導実習を行う。			
実習内容 1. 第1週：1～5日目 参加実習（部分実習） ・幼稚園の教育実践に参加・体験することにより、教育者に必要な資質や能力を養う。 ・多様な幼稚園の役割や機能について理解を深め、教育者間や他機関と連携を学ぶ。 ・幼稚園におけるこどもの活動と指導計画について理解する。 ・幼稚園における教育者の役割と指導方法について理解する。  2. 第2週：6～10日目 参加実習（責任実習） ・可能な範囲で部分実習、指導実習を行う。 ・子育て支援についての現状を知る。（預かり、延長、未就児保育等） ・保護者への対応について学び、家庭や地域との連携、教育者間の連携、チームワークを学ぶ。 ・教育者としての職業倫理を学ぶ。			
テキスト 「教育実習指導事前・事後指導」田治米富子・堀和弘／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「幼稚園保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子・他／著（わかば社）			
学生に対する評価 実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			

授業科目名：(選) 幼児教育研究Ⅱ		授業形態：実習	単位：2単位 授業時間数：80H
専門科目		・学外実習	
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭(保健体育)・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ この授業は学生自身が主体的に学ぶことを目的としている。幼児教育への研究等を積極的に行うことによって、幼児教育への理解を深める。			
授業の概要 幼児教育の研究等を通して、こどもへの理解を深める。			
授業計画			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ボランティア等に積極的に参加し こどもを取り巻く現代社会の問題点について 調査・研究を行い、考察する。</p> <p>例) こどもの虐待 こどもと貧困 こどもの発達障害 等</p> </div>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 幼児教育についての研究テーマの決定</li> <li>3. 研究計画立て</li> <li>4. 調査①</li> <li>5.    "②</li> <li>6. 研究</li> <li>7.    "②</li> <li>8.    "③</li> <li>9. 中間発表</li> <li>10. フィードバック</li> <li>11. 課題の明確化</li> <li>12. 再調査</li> <li>13. 研究</li> <li>14.    "②</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 図書館やインターネットを活用すること。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：表現Ⅰ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
専門科目		・表現	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「表現」分野		
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「言葉」分野		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ・エレクトーン講師		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
新関 美保	[実務経験]吹奏楽団主宰		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ 音楽による表現、言葉による表現、身体表現、造形表現など保育の技術を活かして、自己表現することで作品を創りあげていく。また、仲間とともに自身の感性を磨き、人を感動させること、人の心を捉える表現について考察する。			
授業の概要 感性が豊かで、伸び伸びと表現をすることの力を育むためには、保育者自身が同様に豊かな感性をもち、生き生きと表現する能力を持たなければならない。ここでは歌唱、器楽、演劇、創作ダンスなどに分かれ、それぞれのグループがどのような形でどのような表現をし、何を伝えていくか、練習計画やその方法などを話し合いながら進めていく。学年末には、一つのテーマをもった卒業研究発表会に繋げていく。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. グループ協議 3. 音楽、美術の計画 4. 研究計画の作成 5. 個人研究① 6.       "   ② 7.       "   ③ 8. 共同研究① 9.       "   ② 10.      "   ③ 11. 全体練習① 12.      "   ② 13.      "   ③ 14. 中間発表準備 15.      " 16. 試験（中間発表）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配布する。			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			

授業科目名：表現Ⅱ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
専門科目		・表現	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「表現」分野		
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「言葉」分野		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
新関 美保	[実務経験]吹奏楽団主宰		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ 音楽による表現、言葉による表現、身体表現、造形表現など保育の技術を活かして、自己表現することで作品を創りあげていく。また、仲間とともに自身の感性を磨き、人を感動させること、人の心を捉える表現について考察する。			
授業の概要 それぞれの表現の特徴を理解し、それが最大限に生きるような表現方法を探し出す。グループ全体が納得し、同じ温度を保ちながら一つの目標に進んでいくことが求められる。リーダーとしての統率力や協調性を育むことも必要になる。互いを思いやる心も育てながら、豊かな表現とは何かを考えていく。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. グループ協議 3. 音楽、美術の計画 4. 研究計画の作成 5. 個人研究① 6.       " ② 7.       " ③ 8. 共同研究① 9.       " ② 10.      " ③ 11. 全体練習① 12.      " ② 13.      " ③ 14. 中間発表準備 15.      " 16. 試験（中間発表）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配布する。			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			





